



書評

[評者]

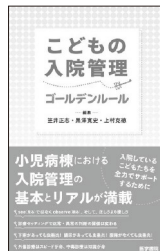
児玉 和彦

医療法人明雅会こだま小児  
科理事長

# こどもの入院管理 ゴールデンルール

笠井 正志, 黒澤 寛史,  
上村 克徳 編

●B6変型 頁312 2024年1月  
定価: 3,960円 (本体 3,600円+税 10%)  
[ISBN978-4-260-05078-4] 医学書院刊



本書を編集・執筆された3人の医師とは長  
い付き合いであり、さまざまな薫陶を受け  
た。先生方の過去の名言と、本書における  
それぞれのイチオシルールと共に、この良  
書『こどもの入院管理ゴールデンルール』を  
紹介したい。

(1)「紳士であれ」by 黒澤寛史先生。私が  
初期研修医のときに一緒に当直させていた  
だいたことが何回もある。黒澤先生が「紳士  
であれ」とおっしゃったことはないが、その  
背中にはそう書いてあった。イチオシルー  
ルは「経静脈栄養なんていない」(p. 37)  
である。初期研修医、小児科専攻医の先生  
方にぜひ読み込んでいただきたい内容であ  
る。

(2)「Vision & hard Work (VW)」by 上村克  
徳先生。私が初めて小児病院で講演させて  
いただいたのは上村師のお導きによるもの  
であった。イチオシルールは、「外観から酸  
素化不全・換気不全を即座に推定しよう」  
(p. 53)。小児科専門医やプライマリ・ケア  
医には気付きが多い、気管支喘息について  
のルールである。

(3) 笠井正志先生には名言はない。存在そ  
のものが名言である(のかもしれない)。イ  
チオシルールは「細菌の1日が真菌の1週の  
イメージ」(p. 263)。病棟を離れたベテラン  
医師こそ、原則に立ち返った診療をしなければ  
と思わせる内容が多い。

\*

近年、論文に書かれた結論を「金科玉条」  
として主張する老若男女とよく出会う。似

たような言葉である「ゴールデンルール」に  
は、「してほしいことをしてあげる」という  
ニュアンスがある(「はじめに」より)。本書  
にちりばめられたルールは、鮮明に臨床現  
場の悩みを照らすものであるが、金科玉条  
ではない。読めばわかるが、執筆者たちが  
泥くさい臨床を積み重ねてきた経験の中に  
沈み込んだ一粒の砂金のような知恵である。

小児科病棟での「困った」に即座に役立つ  
のは間違いないだけでなく、小児在宅医療  
での気管切開や胃瘻管理、あまり経験しな  
い長期留置カテーテル(シャント含む)につ  
いてコンパクトに記述された稀有な本に  
なっており、病院に紹介した後でどのよう  
な治療がなされるのかを知っておきたい、  
私のような開業小児科医も読むべきである。

\*

本書は貴重なルールブックである。しか  
し「まえがき」に書かれているように、臨床  
に黄金律は存在しない。したがって、この  
トリセツは「本書の黄金律はシンプルでクリ  
アですので、その根拠になった論文を探し  
て勉強することをお勧めします」である。  
ルール(rule)には根拠(roots)がある。  
根っこが広がって初めて大木になる。No  
roots, No rule. 執筆者たちの「大木感」はこ  
の表面に見えない深い根っこからきている  
ことを読者は忘れてはならない。

最後に僭越ながらご指名ですので(?)、  
私からのゴールデンルールを1つ。「答えは  
ベッドサイドにしかない」。本書をポケット  
に入れて、患者さんのところに行こう。